

2021（令和3）年10月27日

「現代口語ビルマ語における-tà/-hmà 節とその後続する節との意味関係」

発表者：チンガイリャン（東京外国語大学大学院博士後期課程）

現代口語ビルマ語における名詞節標識-tàを用いた-tà節が後続する節と順接と逆接の関係を持つ場合があることが澤田（1992: pp.47-49）で指摘されている。（澤田英夫（1992）「現代口語ビルマ語の名詞節標識-ta_・-hma_の用法・機能」『言語学研究』11号, pp.25-61.）

本発表では、叙実法の名詞節標識-tàを用いた-tà節と後続する節はどのような順接と逆接の関係を持つか、叙想法の名詞節標識-hmàを用いた-hmà節も後続する節と順接と逆接の関係を持つかについて観察し、-tà/-hmà節とその後続する節との意味関係について考察した。

その結果、-tà節と-hmà節は両方とも後続する節と順接と逆接の関係を持つことが可能であることが分かった。-tà/-hmà節と後続する節の意味関係を順接と逆接に分け、順接では-tà/-hmà節が後続する節に対して理由と原因であること及び、逆接では-tà/-hmà節と後続する節の文全体が予想外、非難、後悔などの意味が解釈されることを述べた。-tà/-hmà節が後続する節に対して理由である場合、その名詞節の内容は話し手と聞き手の共有情報として述べられ、後続する節では非現実を述べる述語が生起する。-tà節が後続する節に対して原因である場合、文全体が一つの事態として述べられている。そして、-tà/-hmà文とは異なり、従属節的な-tà/-hmà節の節内では焦点がないことを示した。-tà/-hmà節は後続する節と順接と逆接の関係を持つことが可能であるが、-tà/-hmà節が従属的である、その形態的な特徴が見当たらなかった。